



創刊特別号

編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」編集クラブ

電話 06-6429-9908



学びへの情熱

園田学園女子大学

学長 今井 章子

本学のシニアコースへ入学されて数ヶ月、夏休みも終わり二学期の授業が始まる頃になりました。4月からの大学での学びは、満足できましたでしょうか。若い時の学びは、卒業後の就職に有利であるとか、時代が必要としているとか、現実の生活と深く結びついたものである場合が多いようです。

もはや大学で学ぶことが、幾分打算的で人生の糧を得るための手段になったようです。大学が高校生の50%以上が進学するというユニバー

サル型になっていることの象徴ともいえます。純粹に好きなことを大学で学ぶということは、日常的事から距離を置いて生活ができるようになった中高年の人々の特権であります。後半の人生をどう生きるか課題ですが、年を重ねることが輝いて若者の羨望の的になると思うだけで幸せな気分です。

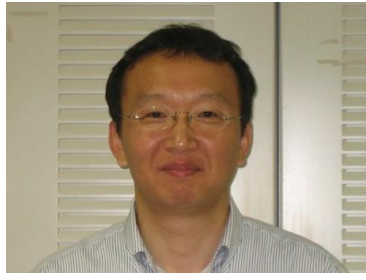
ご自分の興味と関心に導かれて、若い女子学生のいるキャンパスで学びながら思索に益々耽っていただきたいと思います。

シニア専修コースでご指導を頂く先生方からのメッセージ

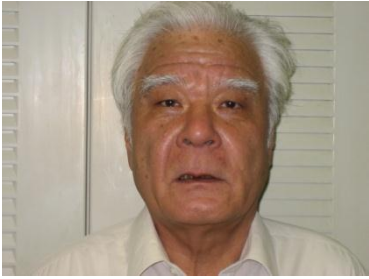
なお、敬称は省略、順序はあいうえお順で掲載させて頂いています。

1 段目	お名前	2 段目	お写真	3 段目	役職名
4 段目	ご担当科目	5 段目	メッセージ		

文学歴史学科、国際文化学科

石森 大知	乾 安代	岩崎 日出男
		
日本学術振興会・特別研究員 筑波大学大学院人文社会科学研究科	本学教授、近松研究所長、 図書館長	本 学 教 授
アジア太平洋文化論（前半）	日本芸能史	仏教の歴史と思想 漢詩・漢文の世界
受講生の方々が色々と興味深い質問をして下さるので、私自身も本当に勉強になりました。	日本の（主として古典）芸能を、鑑賞を交えつつ楽しく学びます。観劇の感激をじっくり味わってほしいです。	私たちの生活に身近な仏教行事（お盆・お彼岸・49日など）を通して、仏教の思想を講義します。また、漢詩や故事成語を中心とした、日本人にもなじみ深い作品から中国の歴史や文学を学んで戴きたいと思えます。
景山 尚之	片山 佳子	河合 利光
		
本 学 教 授	本学名誉教授	本 学 教 授
日本文学Ⅰ	ゼミナール特講	文化人類入門
毎回、睡魔と戦ってくださり恐縮です。	・学ぶことは楽しい。 ・「少（わか）くして学べば壮にして為すあり。壮にして学べば老いて衰えず。老いて学べば死して朽ちず」	いつも熱心に聞いていただき有難うございます。

葛西 進司	桐藤 薫	田辺 真人
		
元本学非常勤講師 元梅花女子大学教授	関西学院大学大学院 文学研究科研究員	本学名誉教授
国際関係	日中関係史	日本史学Ⅰ
下欄を参照して下さい。	歴史を学ぶことを通して他者を理解し、ひいては自己を理解することに繋がればと願っております。	現在の私たちを形づくった時間的背景—歴史はとても興味深いです。ご一緒に楽しみ学びましょう。
谷川 奏教	福田 誠二	福島 昭治
		
高野山大学名誉教授	(財)兵庫県人権啓発協会企画研究員 元県立西宮高校長	本学教授
【古代仏教センター「ガンダーラ」の興亡に学ぶ】	日本史学Ⅱ	日本文学Ⅱ
お釈迦さまとお大師さんの教えを通してひと味違った仏教の魅力を感じていただけたらと願っています。	皆さんの溢れる向学心にパワーをいただきながら時には難解な史料にチャレンジしていきましょう！	源氏物語は面白い！それを読む楽しさと豊かさを語り続けます。
葛西先生からのメッセージ “国際情勢は複雑怪奇”とあって、戦前、日本の外交国は国際連盟を脱退しています。確かに、国際関係は戦前も現代も、国益が絡みあい、一筋縄では理解できないかもしれませんが、それだけに、挑戦のし甲斐があります。物事にはウラとオモテ、本音と建前があります。そのウラ側を知れば、国際関係の本質が見えてきます。本講座では、新聞、テレビからでは見えてこない、国際ニュースの深層に迫ります。 本講座受講の皆様は、ビジネスや生活体験が豊かで、事任の裏側に、潜む本質を見抜く力を持っていますので、国際関係の理解により有利ではないかと思ひます。		

松山 利夫	山口 悟	吉村 稠
		
総合研究大学院名誉教授 国立民族学博物館名誉教授	大阪学院大学准教授	本学名誉教授
多文化共生論	西洋史概説 現代史特論	日本文学Ⅲ 日本文学研究Ⅰ 日本文学研究Ⅱ
仲間をふやしましょう！ みなさんの周囲の方にも宣伝 をしてください。	歴史を楽しみましょう。	・人生、何でもある！ ・何でもある、文学の世界！ ・そのだ『シニ専』を楽しんで ください。

文学歴史学科 国際文化学科	情 報 学 科	
吉本 康子	稲熊 孝直	小田桐 良一
		
国立民族学博物館外来研究員	本学非常勤講師	本学准教授
アジア太平洋文化論（後期）	基礎情報（後期）	応用情報（前期）
「異文化の魅力と尊厳をともに 学びましょう！」	「後期、基礎情報の授業を担当 する稲熊です。よろしくお願いします。 パソコンでは絵や文書を編集集中に 操作を間違えても、多くの場合は元 の状態に戻すことができます。失敗の 積み重ねが上達への第一歩だと思 いますので、失敗を恐れず、どん どん挑戦してください。」	応用情報の前期を担当していま す小田桐良一です。 授業では、PowerPoint を用いた 口頭発表を前提としたスライド作 成や、大規模なデータを効率よく 管理するデータベースの構築や 検索の仕組みといった分野の 実習を行います。

垣東 弘一		堀田 博史		浦口 美園	
					
本学准教授		本 学 教 授		ティーチングアシスタント	
基礎情報（前期）		応用情報（後期）		基礎演習 2	
「情報の技術と知識を身につけ、賢く・楽しくパソコンを使いましょう！」		学び続ける楽しさを実感しましょう。		非常勤TAの浦口です。後期から基礎演習Ⅱの補助に入ります。シニアの皆さんのご質問に答えられるよう頑張りますので、よろしくをお願いいたします。	

篠崎 美紀	橋本 美樹	森 純子	山口 陽子
			
ティーチングアシスタント	ティーチングアシスタント	ティーチングアシスタント	ティーチングアシスタント
応用演習 2	基礎演習 1 応用演習 2	応用演習 1	応用演習 1 基礎演習 2
TA 篠崎です。情報を専攻されているシニアの方は、とてもご熱心にパソコンを練習されています。その姿を見て、私も頑張ろうという元気ももらっています。これからもよろしくお願いします。	TAの橋本です。シニアの方はとても多趣味で、様々なことに興味を持たれていることが素晴らしいと思います。私を見かけたら気軽にお話して下さい。これからも宜しくお願いします。	TAの森です。明るく前向きで勉強熱心なみなさんとお話できるのをいつも楽しみにしています。これからも一緒に楽しく学んでいきましょう！よろしくお願いいたします。	5号館4階で情報教育のティーチング・アシスタントをしている山口です。本学でお会いするシニア学生の皆様は、とてもはつらつとされていて、笑顔が素敵で、「学ぶ」意欲に燃えていらっしゃるようにお見受けいたします。少しでも、皆様のお役に立てればこの上なき喜びです。諸事情により、お写真はご遠慮させていただきましたが、どうぞ、よろしくお願いを申し上げます。

「けやき便り」の発刊に際して

総合生涯学習センター
所長 松成 雄三

「けやき便り」の発刊おめでとうございます。

受講生のみなさんのなかから「けやき便り」を発刊したいとのご意向を伺い心底嬉しく思いました。

課外活動の場としての施設・設備が十分ではないこともあってか、現在のところ、コーラス部、謡曲部ですが、今年になってこの「けやき便り」の発刊、いくつかのクラス会、国際文化学科では1～3年を通じた学外勉強会など、みなさんから新しい動きが出てきております。「教室での学び」に加え、さまざまな自主活動を通じて有意義な時間を本学を舞台に過ごしていただければと思います。

おかげさまをもちまして、シニア専修コースは平成14年開設以来、今年で9年目を迎えており現在280名余の方が学びにいそしんでおられます。

生涯学習への取り組みはさらに歴史があり、諸先輩の努力のおかげで30年を経過しました。本年12月には、ご案内のとおり、『30周年記念行事/今日は一日生涯学習三昧』を開催の予定です。これは言うてみれば、生涯学習者の文化祭です。みなさんや、公開講座ご受講の方々を主役に担当の講師の先生方を交え、有意義な一日にしたいと考えています。ご意見、ご提案にとどまらず、発表、展示等ぜひとも積極的なご参画をお願いします。

総合生涯学習センターのスタッフの皆さん



施設案内



シニア専修コース掲示板
(1号館1階)



開花亭(食堂)
(5号館1階)



保健室(5号館2階)
2階上がってすぐ左にあります。



総合生涯学習センター事務室
(1号館1階)

シニア専修コース掲示板、総合生涯学習センター事務室は、皆さんへのお知らせ・変更の掲示等を行っています。
また、「けやき便り」への投書箱・連絡箱を設置しています。



チャティー
(5号館2階)
喫茶室のような所ですが、
親睦会・パーティーに利用
できます。



AVコーナー(3号館2階)



生協売店(5号館1階)



喫煙場所
(南入口の隣、園芸実
習室の横の公園)
喫煙場所は、ここし
かありません。必ず、
守ってください。



AVホール(3号館2階)



生協売店(5号館1階)

図書館(3号館3～5階)



近松研究所(5号館3階)

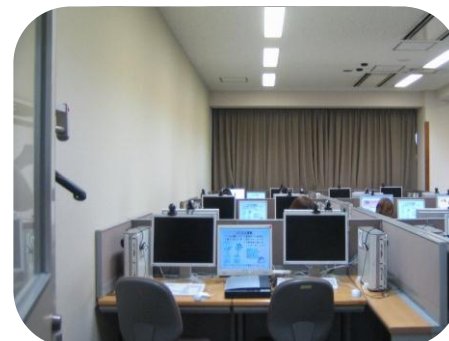


この表札は、樹齢三五〇年の桜材で近松門左衛門と同世代です。この書は、テレビドラマの題字等でお馴染みの竹内志朗氏の揮毫です。

図書館・近松研究所利用の注意事項

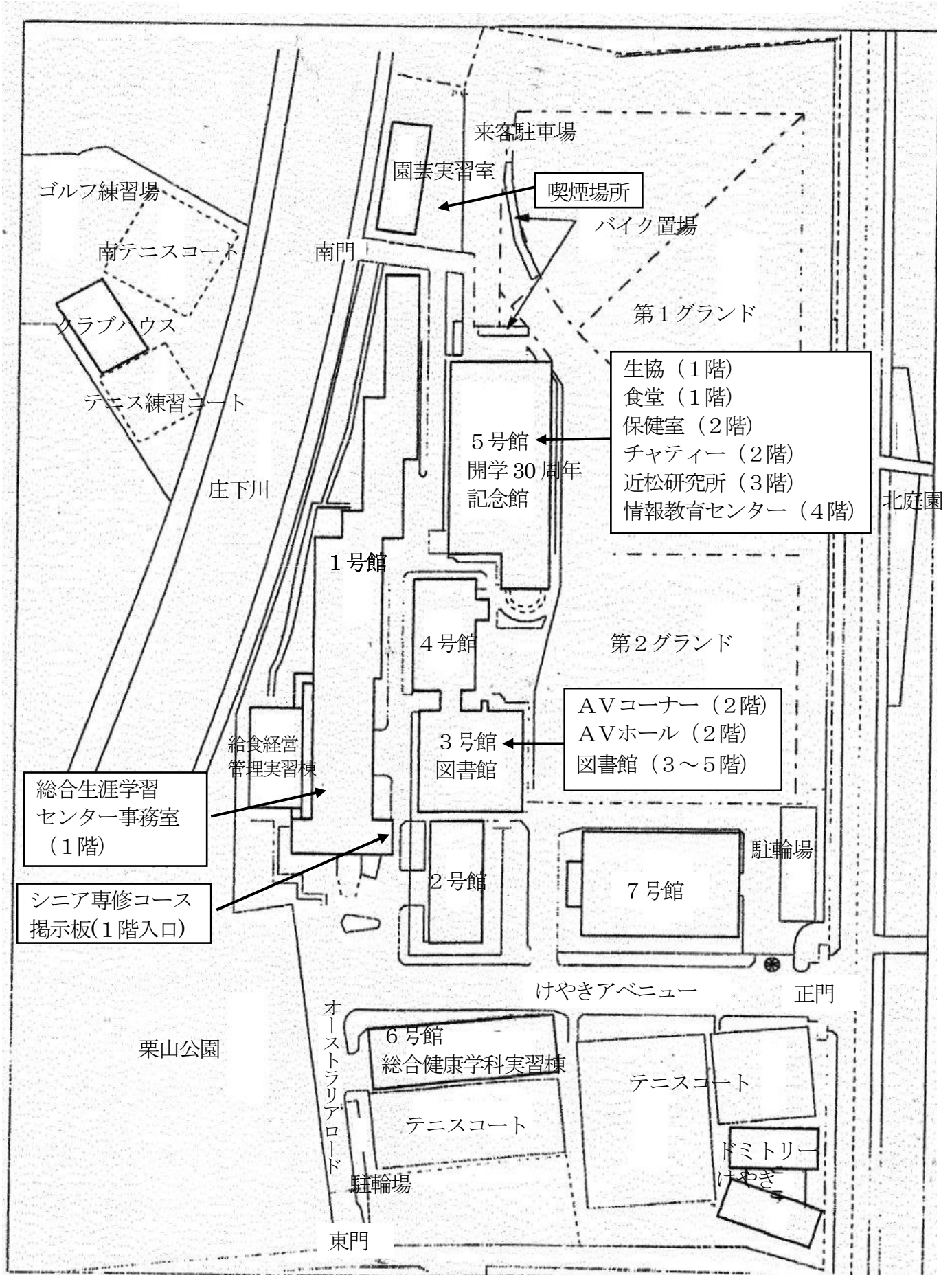
- ◆ 開館日時 月曜日～土曜日（ホームページにて念のため確認して下さい）。
- ◆ 休館日 日曜日、国民の休日・祭日、館長・所長の決めた休館日（春・夏・冬休みの長期休み、他）但し、近松研究所は土曜日は休みです。
- ◆ 貸出 カウンターで「学生証」を提示、別途手続きが必要です。図書館と近松研究所を合算して、冊数は5冊まで、期間は15日間です。

情報教育センター(5号館4階)



情報学科の学生は、パソコンの使用が可能です。
授業以外でパソコンが自由に使用できるのは、月曜日、水曜日と土曜日です。
また、文学歴史学科および国際文化学科の学生も、情報学科の科目を選択すると情報学科の学生と同じくパソコンが使用できます。

園田学園女子大学およびシニア専修コース関連施設配置図



* 4月16日（金）平成22年のシニア専修コース入学式が行われました *

午後2時から、今井学長をはじめご来賓の方々の臨席を頂き、講堂（1号館4階）で執り行われ、入学許可証が授与されました。

新入生数は、文学歴史学科…34名、国際文化学科…15名、情報学科…15名です。



入学のお祝いの言葉を述べられる今井学長



今井学長から入学許可証を授与される新入生代表



入学式で大学の歌等を披露されるコーラス部の皆さん

入学に際しての新入生のメッセージ

文学歴史学科 赤澤佳寿子

阪神シニアカレッジを今年三月に卒業いたしました。2月には総合生涯学習センターの所長様に学園を案内していただき食堂、図書館に通う楽しみも見つけ以前から学びながら遊ぶ40年間の仕事も終え子育てもやや終えたとまだまだ知らな事だらけ明日の事来年の事はさらに解からない・・・今を楽しく生きよう。青春とは心の若さを持ち続ける事である。幸いにも入学許可を許され心新たに通学しております。

…万緑やブロンズ像の胸豊か…

学生の華やか話声・笑い声に包まれてあつという間に夏休みになりました。

…学食の化粧する娘は日焼けして…

…どきりとす女子大生のサンドレス…

34名まだまだ名前とお顔が一致いたしません、お茶したり、カラオケ、情報交換しながら、また教室を飛び出してゆとりの時間を楽しく過ごせたらいいな～と思います。

先輩諸氏宜しく願いいたします。

…七夕や終業の鐘のピアノシモ…

国際文科学科 内兼久 悦子

4月16日、雨の入学式でした。

一人一人の夢と希望がいっぱい講堂につまりました。主人が亡くなり半年余り、糸の切れたタコのような日々を送っていた私に、久しぶりに心に張りがある日が始まりました。

先生や学友とのお茶会、ユーモアあふれる自己紹介の中、エネルギーをいただき又先生方の未知なる講義の楽しさの中、新しい人生を実感しておりました。なのに……………

何で！何で私なの！5月28日左足首骨折入院全治3ヶ月、2年生に進級できない挫折と絶望感でうつ状態でした。そんな中この年になり

クラスメートが私を心より励まして心配してくれる友が、「松葉杖についても学校に来るのよ、めんどろ皆んなで見るから」と見舞ってくれました。うれしくてアア私は人生終わってなんかいない、もう一度ゆっくりやり直そうと勇気ができました。ありがとう園田女子学園先生、キラキラ輝く学友、本当にありがとう。

情報学科 秋田 喜美代

「シニア専修コース入学について」

私は我が町の公民館活動の中で、家で寝ているワープロを使ってボケ防止をしませんか、という講座があるのを知り息子が置いていたワープロがありましたので講座の仲間に入れたもらい。文字を打つことを覚えました。

そんな中ワープロ終了の時代になり次々と皆さんがパソコンになって私も仕方なく、パソコンを持ち少しづつ勉強してきました。でも今までの勉強はごくごく浅くの勉強で私自身スキルの低さに気づき、もう少し深くスキルを身につけたいと思ってましたら、園田学園女子大学にシニア専修コース、情報学科があることを知り大学に伺い担当の先生から色々ご説明をいただき、大きな魅力を感じ入学を希望しました。学校が始まってからは授業についていくことにあたふたしながらも規則正しい生活があり又綺麗なキャンパスに通えること、友人と語り合えること楽しい日々を過ごしています。これからの3年間でどれだけスキルアップできるか又それをどれだけ生かせるか分かりませんが、自分なりに向上心を持ち続け無事3年間を過ごすことが出来たらと思っています。先生方にはどうぞ宜しくと、又色々お世話して下さる皆様にはありがとうございますの感謝の気持ちでいっぱいです。

国際文化学科 菅野恵美子

4月に入学して早、4ヶ月になる。40年くらい続けていた仕事を早期退職して、家族の世話、趣味など忙しい日を送っていた。しかし、何か物足りなさ感じていた時この学校を知った。そして早急に手続きをして入学に至ったのが入学式直前だった。その後、よい学友たちにも恵まれ、楽しい学生生活を送っている。今は国際文化学科の1年目に必要な履修科目を受けているが、目から鱗の毎日である。入間とはなにか、世界で起きていること、国際問題など学べば学ぶほど自分の物の見方、世界での日本の立場に疑問を感じるようになってきた。そして新聞やテレビの見方も変わってきた。また学友たちとお茶タイムもおのずと情報交換や学びの場となっていて今までにない充実感を感じている。これからは学外研修などもあり益々楽しみである。

国際文化学科 新川 緑

「勉強してみたい!!」

今年に入り、仕事も辞め、末娘も結婚。自分の時間が出来、即私の頭の中に浮かんだのは“また勉強してみたい”ということでした。

特にアジア（インドネシアやタイ）に興味があり、新聞で園田のシニア専修コースに国際文化学科があるということを知り、入学させていただきました。

4月からのこの3ヶ月半、目からウロコが落ちるような講義をいくつも聞かせていただきました。特に文化人類学入門では「偏りのない人間観」「異文化への深い敬意」を持つことの大切さを教えていただきました。このようなスタンスで問題を考えていくと、今までとはまた違った角度からものが見えてくるということ。私はこれまでの自分の見方はいかにも狭く、一方的だったなあと感じています。

もう一つ入学によって素晴らしいことがありました。「この講義はこうよねえ」と言い合える友人に巡り会えたことです。もうすぐ〇才の私にこんな話が出来るなんて……………。

遠い学生時代に還ったようで、遠くから来るのが楽しみな日々です。

先輩からのメッセージ

国際文化学科2年 西 阪 順 三

楽しみましょう生涯学習

私は昭和7年生まれの78歳。勤めを終えて神戸市シルバーカレッジを皮切りに、兵庫県阪神シニアカレッジ、園田学園生涯学習センターと9年間にわたり、生涯学習をハシゴしている。

最初は暇つぶしという軽い気持ちでしたが、神戸市シルバーカレッジの校訓であった“再び学んで、他のために”を実践しようとはじめたボランティア活動も10年になる。こんな風にいうと、ええ格好にも見えるが、この間自分へのご褒美にと年に一度は、海外旅行に出かけてエンジョイしている。

今年2月にも河合利光教授の文化人類学で学んだ「南太平洋フィジーの社会と文化」に魅せられて、クラスの仲間と自主企画でフィジー諸島を訪れた。

10日間にわたり島の小学生や原住民との文化交流を深めてきた。

私の目標とするのは、85歳になってもなお元気に勉学に励む同じクラスの平野博幸さんを見習って、何でも気楽に話し合える仲間づくりや、クラブ活動のコーラスを楽しみたいと思っている。

7月18日（17日）神戸で「史学Ⅰ」の校外学習が、 田辺先生のご指導で行われました。一部を紹介します。



集 合

10時30分
神戸市役所前にある
花時計に集合しました。



モーツアルト像

神戸市役所の南にある東遊園地。ルミナリエの終点になる公園です。この園内にはいろいろな記念碑や像があります。



絶景の風景

神戸市役所24階から見る
神戸港と六甲山の景色は
最高でした。



モラエス像

東遊園地にあるモラエス像。1899年に日本に初めてポルトガル領事館が開設されると在神戸副領事をした赴任、後総領事となり、1913年まで勤めました。



海軍操練所の碑

1864年軍艦奉行・勝海舟によって現在京橋付近に開設された海軍士官養成所の跡。



“レッツゴー”神戸
神戸の町の探索が楽しみです。
さあ出かけましょう。



居留地海岸通り

兵庫県神戸市中央区にある2つの町名で、両者は地理的には連続しています。郵便番号はともに650-0024。



加納宗七の銅像

彼は、紀州藩士で竜馬暗殺後、同藩の陸奥宗光が引き起こした天満屋事件にも参加しており、新撰組と乱闘しています。



旧居留地十五番館

兵庫県神戸市中央区のにある西洋館。旧アメリカ合衆国領事館。



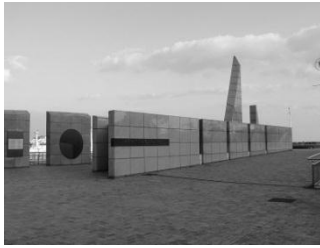
日本近代洋服発祥の地の碑

日本で最初の洋服店がオープンしたのは1869年。英国人カベル居留地16番で創業しました。



旧・居留地下水渠

横浜と並び西洋式下水道としては日本最古。現在も供用されているという意味で貴重な遺産です。



神戸震災メモリアルパーク

神戸港メリケン波止場の一部、約60メートルを被災したままの姿で残し、震災の教訓を後世に伝え、神戸港の被災の状況、復興計画、復旧の様子などを写真、年表などで展示しています。



商船三井ビル（旧大阪商船神戸支店）

設計者の渡辺節は、この建物の設計に先駆けて欧米を視察し、特にアメリカの高層建築技術に影響を受けたと言われています。



神戸市立博物館（旧横浜正金銀行神戸支店）

戦後、横浜正金銀行が解体されてからは東京銀行神戸支店として利用されます。その後、市の所有となり、昭和57年に一部増築し博物館としてオープン。



萬国波止場の碑

1868年に鯉川尻に造られた第3波止場は、アメリカ領事館の前にあったことから、「メリケン波止場」と呼ばれました。



地震の傷跡を保存

阪神・淡路大震災の悲惨さを今に伝える公園。震災で壊滅した岸壁や傾いた街灯に手を加えることなく、当時のままの状態で保存しています。



神戸港移民船乗船記念碑

ブラジル移民船は神戸から初めて出港しました。



メリケンシアター

1896年、日本で初めての映画「活動写真s」が花隈にあった「神港倶楽部」で上映されたのを記念して設置されたオブジェ。



サンタマリア号

神戸メリケンパーク広場にある帆船 サンタ・マリア号は、コロンブスが西インド諸島・アメリカ大陸への航海ときに乗っていた帆船を復元したものです。



Fantasy号で船旅！

中突堤・かもめりあ前からでるマリン（遊覧・観光）クルーズ船★45分間でハーバーランド・造船所・神戸空港と就航します。目の前に広がるオーシャンビューは感動ものです！！



国立民族博物館に行ってきました

7 月 31 日（土）多文化共生論ご担当の松山先生のご指導により、千里の万博記念公園にある国立民族学博物館で校外学習が行われました。

なお、参加者は、国際文化学科、文学歴史学科、情報学科の計 36 名です。



7. 日本コーナーで説明を受ける。
青森は「ねぶた」
弘前は「ねぷた」と
呼び方が違うのを
初めて知りました。



1. 10 時 30 分
国立民族学博物館に
集合



8. 白川郷の合掌造りの
模型。
さすがに見事な出来
栄えでした。



2. 施設見学に際しての
注意を民博担当者か
ら受ける。



9. 沖縄琉球コーナーで
説明をされる松山先
生。琉球王朝は、薩摩
藩と清国の二重支配
を受けていました。



3. この校外学習の実施
に際してご努力を頂
いた国際文化学科 2
年の山田さん



10. オーストラリア先住民
アボリジニの説明を
受ける。



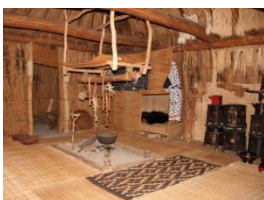
4. 民博見学に際して、
事前講義を松山先生
から受ける。



11. アボリジニの旗が
描かれたポスタ



5. アイヌ民族のコーナ
ーで説明を受ける。



6. 実物大に再現された
アイヌ民族の家屋



2010年7月28日(水)「毎日新聞ほっと兵庫」

No 692

「ほっと兵庫」編集室
神戸支局内 神戸市中央区
栄町通4の3の5
☎078-371-7760 FAX371-7922
E-mail:
kobe-hothyogo@mainichi.co.jp

WEEKLY

ほっと兵庫

「一生勉強」熱く

毎日新聞

MAINICHI

新毎日

園田学園女子大学 シニア専修コース



和やかな雰囲気の中にも真剣に学ぼうとする熱気も感じられたシニア専修コースの教室

元教師など経歴さまざま

向学心あふれるシニア世代が増えている。自治体などが行う市民大学や公開講座などの生涯学習の課程を終えた後もさらに学びたいという要望に応じて設置されたのが園田学園女子大学(尼崎市南塚口町)のシニア専修コースだ。現在、280人ほどが在籍している。学ぶ意欲に満ちた同コースの教室を訪ねた。

【田中正子】



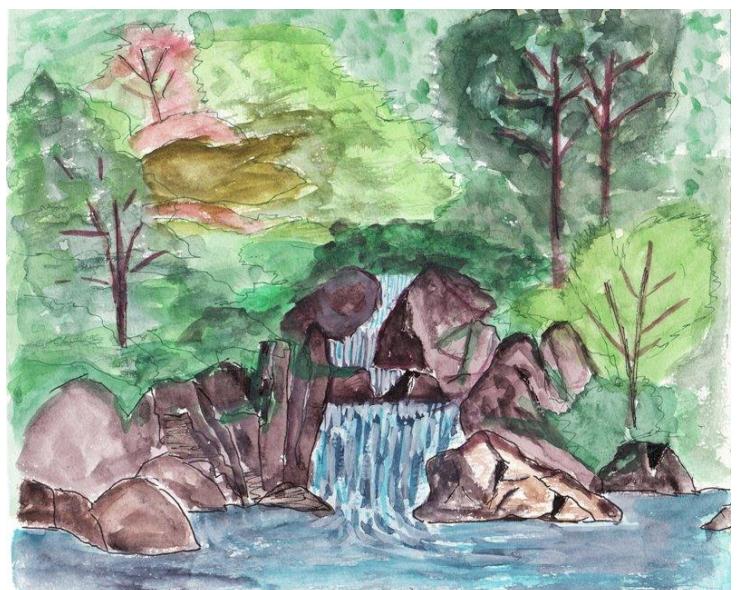
田辺名誉教授

メモ 同女子大シニア専修コースは文学・歴史学科、国際文化学科、情報学科がある。1年目は基礎、2年目は各論、3年目は応用を学ぶ。それぞれに必修科目と選択科目から最低2科目を履修する。

「この人、中国かぶれだったんです」。講師の田辺眞人名誉教授が藤原仲麻呂についてそう説明すると、教室全体に笑い声が起る。文学歴史学科の日本史Ⅰの教室。このシニア専修コースの特徴は、大学が運営する生涯学習では全国的にも例がない3年という長期的カリキュラムを組んでいるところ。02年、田辺名誉教授と現在総合生涯学習センター長を務める松成雄三さんが中心となって設置した。大学という特性をカリキュラム編成などに生かし、食堂や図書館などの利用で学園生活を満喫できるようにした。

生徒は60代から70代が中心で、元教師や主婦など経歴はさまざま。神戸在住の遠藤明さん(73)は「何かまとまったことを、新しい感覚でやってみよう」と入学した。阪神シニアアカレッジ卒の郷絃子さん(70)は「歴史が好きやし、続けて学びたかった」と言う。

05年には大学院に当たる研究生制度も設置され、好きな科目をじっくりと研究できるとあって、こちらも人気だ。「一生勉強」とはよくいわれるが、果たして自分にできるかと問うと、自信がない。ただ生徒さんたちの生き生きと学ぶ姿には触発される思いだった。



万博公園日本庭園 情報学科2年 上野栄三 画

皆さまから投稿していただいた記事を掲載しています



国際文化学科2年 西阪 順三

第1回

常夏の島、フィジー諸島といってもご存知ない方が多いのではないのでしょうか。ハワイ諸島オーストラリアの中間に位置し、日付け変更線のすぐ近くにある世界で一番早く日が明ける島でもあります。かつて日本の遠洋漁業船団の基地もあり、日本人にとっても関係の深い島でもありましたが、今では日本から航空機の直行便もなく、忘れかけようとされていました。

ところが、最近になって多くの日本人学生が語学の勉強のために、留学やホームステイしており、再び注目されるようになっていきます。

私たち園田学園女子大学シニア専修コース1学年、山田孝雄、荒井皓至、西阪順三ら5名は、河合教授から学んだ文化人類学で「フィジーの社会と文化」に魅せられて島を訪れることにしました。

以前この島を訪れた事のある河合教授の紹介もあり、山田さんが現地でホテルを運営する日本人の吉田政雄さんと連絡を取り、約2ヶ月をかけて、訪問する小学校、原住民の集落や宿泊先の手配をしてもらいました。出発直前になって参加希望していた2人が、本人や家族の病気でキャンセルするなど旅の前途が心配されました。結局、男子3名に、山田さんの妻、治恵さん、師亨子さんの2名に加わって頂き計5名の参加です。

まず初日の2月23日午後、関西空港から出発しましたが、前記のように直行便がなく大韓航空で、韓国インチョン経由、フィジーの国際空港ナンデイに着いたのは日付けが変わった2日目の24日午前9時40分になっていました。フィジーとの時差は3時間、そのうえ現地はサマータイムで1時間早く、4時間も時計の針を進めなくてはなりません。

フィジー諸島は大小322の島からなり、その島々は実に変化に富んでいます。紺碧の海、珊瑚礁を抱いた美しい海岸には椰子の林が並ぶ。こんなビーチがたくさんあるので、世界各地から若者たちが、ダイビングやシュノーケリングなどマリンスポーツを楽しみにやってきます。



ナンデイ空港前の美しい広場

総人口 84 万人、住民のほとんどが首都、スバやナンデイ、シンガトカなどの都市に集中しています。かつてはイギリス領であったため、多くのインド人がサトウキビ栽培の労働力として、この島に送り込まれたのです。いまでは彫りの深い特徴のあるインド人が37%の人口を占めています。フィジーの人々の人懐っこさは特別で、人と顔を合わせるたびに、誰彼となく気軽に「ブラ」（フィジー語でこんにちわ）と笑顔で声を掛けてきます。フレンドリーな人々の仕草が大きな魅力でもあります。

まず入国の手荷物検査で、荒井さんが現地の小学生のために2ヶ月かけて苦労して作った竹とんぼ40本が、この国では植物の持込みが禁止になっていて没収されたしまったのです。真冬の日本から一気に、真夏の真っ最中の気温35度もあるフィジー島を訪れたので、その蒸し暑さはまた格別で、皆んな汗だくです。空港内で日本円からフィジードルに交換しましたが、1ドルが45円で、米ドルの約半額です。

フィジー本島に当たるビチレブ島は四国の約半分の大きさで、島の西端にあるナンデイは交通の要所で、ほとんどの観光客はここから西側のヤサワ諸島、マヌサ諸島のリゾートに向かうコースが多いようです。私たちはその反対側にあたる首都、スバに向かうコースを選んだのです。

空港前の停留所でスバ行きのバスに乗ると、クーラーがよく効いていたのでやっと一息つきました。途中、島の南部に当たるシンガトカで20分の休憩です。



古ぼけたバス停で、飲物を買って飲んだ。母親からコーヒを買ったが、正直まずくて飲めません。

幹線道路は簡易舗装ですが、沿道沿いの集落の前には舗装を5センチほど盛り上げて、車がスピードを出さないよう時速、20キロに制限して事故防止に役立っています。途中、南国特有の激しいスコールが降りましたが、30分ほどでカラッと晴れ渡ります。やっとの思いで約5時間後にスバに着きました。関西空港を発ってから何んと30時間もかかって、平均70歳の老人の旅としては過酷な1日でもありました。

いまフィジー共和国は軍事政権下にあつて無政府状態が続いています。でもクーデターという騒ぎもなく、いたって平和な街の表情です。タクシーで最初の宿泊地、郊外の丘の上にある南太平洋大学のゲストハウスに午後4時に無事到着です。早い機内食をいただいてから、昼食抜きだったのでハウス前の食堂に飛び込み、初めてのインド料理を頂きました。

この街を走るタクシーの多くが日本で廃車になった車で、窓ガラスはなく座席はペシャンコです。その上スピードは80キロから100キロの猛スピードで走り、危険極まりません。夜、タクシー運転手の案内で日本料理の店を訪れる。店内は外国人たちで満員の盛況で、天ぷらなどをいただくが、近海で取れたマグロの刺身が本当に美味しかった事。テーブルの向いに日本人と思われる4人組に声をかけると、日本大使館の人たちで、神戸出身の女性職員もおられた。「大学付近は治安が悪いので気をつけてね…」と、注意を受けた。

3日目の25日、近くのマクドナルドで朝食をとり、商店街やパイパーマーケットを見てまわったが、売っている商品は日本のものとまったく変わらないのに驚きです。続いて南太平洋大学を訪問しましたが、この大学は近隣の島国12カ国が共同で設立したので国際色豊かです。宿舎を紹介いただいた図書館職員のドモナさんに挨拶を済ませて学内を見学しましたが、広大な敷地に校舎群が立ち並び、その校舎に沿って椰子の並木が立ち、まるでリゾートを訪れた気分です。

学生達は教室で講義を聞くもの、テント屋根の下で小グループでディスカッションしたり、食堂ではドリンクやランチをいただく学生など、自由奔放な雰囲気は日本では味わえない光景です。またも激しいスコールが降ってきましたが、すぐに止むと学生たちは傘も差さずに悠然と歩いていました。大学本部の奥には日本政府のODAによる4階建てのテクノロジーセンターが建設されていて、こんな所にも日本が貢献しているのだと思うと嬉しくなりました。

このところ1日に3、4回スコールがあり、気温も33度と蒸し暑く日本の真夏の暑さと変わらぬ。午後、繁華街に近いサーストン・ガーデン内にあるフィジー博物館を見学、その昔、



漁業で活躍したカタマラン（双胴船）やカヌーはじめ珍しい漁具、島の文化、習慣などを伝える生活用品や歴史に関する展示品が多く見られました。

〔所思小話、その1〕

成熟した市民社会に夢を育む

国際文化学科1年 小村良二

ここ数年、定職を持たず、ネットカフェなどに寝泊まりして生活する若者たちが増加している。

テレビポプや新聞評論記事などは、このような社会現象は「様々な経済格差や所得格差の拡大・固定化によって、所得の少ない若年層が現実の社会に夢や希望を持てなくなった結果」などと指摘する。それら一遠の報道の結論は、大略「政治は、若年層が夢や希望を持てる社会を実現するように奮戦すべき」と。このように若者行動の社会現象を殊更に取り上げて報道する背景に見え隠れするのは、昭和30年代の東京下町の世相を描いた映画「ALWAYS 三丁目の夕日」(2005年邦画)などに登場した若者たちと同時代に生きた若者たちは、将来に夢や希望を託することができた、と言いたいらしい。しかし、私自身もそうだったが、いつの時代においても自らの将来に明確な夢や希望を抱いていた若者などはごく少数であったとしか思えない。大多数の若者にとっては、生き難い社会をとにもかくにも生

きたのだろう。マスメディアなどが昭和30年代に良き思いを巡らすのは、造られた懐古趣味でしかない。

ところで最近、中・高校生たちに対してシティズンシップ教育を導入しようとする気運が高まってきた。それは高等学校で行われている公民教育の市民版といえるもので、中・高校生たちに市民参加型社会の実践的なスキルを身に付けさせることが目的である。その教育的成果として期待されるのは、彼らが近い将来の民主主義社会における一市民として、正当な権利・義務・社会的責任などを彼ら自身の良識的判断に基づいて行使する能力を得ることである。

教育の知識偏重が叫ばれて久しいが、このような時代だからこそ現代の若者たちがシティズンシップ教育による実践的なスキルを身に付けて良識ある社会人として成長すれば、やがては彼ら自身の参加する市民社会が成熟し、自らの夢や希望が育まれ実現するに違いない。

【一期一会】

文学歴史学科1年 志方得雄

昨年母校が70年振りに甲子園出場を決めた。

一生に一度めぐり会えるかどうかの快挙である。第二戦まで進めることができ、興奮のさなか満員の甲子園球場で、校歌「空の翼」を高らかに歌うことができた感動の一週間であった。

試合後の懇親会に出席すると、私の横に3FのNさんがいた。彼とは高等部時代ほとんどお付き合いがなかったが、今回初めてお話をすることになった。高等部時代は硬式テニス部で活躍されていたようだが、仕事をやめられて丁度1年なるとの事。

私もこの7月から全くフリーで午前中は散歩など時間を費やすことが出来るが、午後は暇。今後どうしたらいいかとお話をしたところ、そのなかでやはりこれかと思うことが三つあった。

①頭をつかうこと。

②体をつかうこと。

③緊張感を感じる環境をもつこと。

特にこの緊張感をもつということ、これは、今までの友達とは違う新しい人達の中に入って、同じ目標をもってお付き合いする機会を積極的にもつという事である。

一人だけではなにをしても拮据はない。新しい仲間との交流のなかで今までとは違う何かが生まれてくるのではないかと思った次第でした。

Nさんが勧めてくれたのは、彼がはいっている『R山の会』に入ったらとお誘いを受けた。

せっかくのお誘いであるし、甲子園出場が縁でとりもってくれた同級生からのお話であったので、これも一期一会かなと思い、とりあえず体験ということで、2週間後に計画されていた能勢妙見山登山に参加することにした。

能勢妙見駅に集合。駅前で軽い準備体操をし、初谷溪谷沿いのコースをとる。

初谷川と森林のなかで日陰が多く、心配していた暑さも感じられない気持ちのいい登りであった。

妙見宮に正午過ぎ到着。参拝の後、朝セブンイレブンで買ったおにぎりを食べる。重たかったお茶も少し軽くなった。前職のNSさんから調子はどうかとメールがはいってきたので順調だと返信。

帰りは上杉尾根コース、この分だと楽勝とほっとしたところであった。頂上の駐車場から下山。下山しようとしたところ70歳前後と思われる女性一人の登山者、道がよくわからないということで同道することになった。

ところがである。行けば行くほど人が通らないようなところに突き当たり途中まで戻る。印があった道へ変えたもののこれも途中から道なき道にまた遭遇。一息休憩する。

時刻も夏とはいえ午後5時近くになってきたので、もう一度頂上まで戻ろうとしたところ上杉尾根コースに出る。ようやく下山が始まり一安心。

映画『八甲田山』を思い出す、へとへとになる初体験であった。先導者言わく思いこみがありすぎた。おかしいなと思っていながら最初山下の入り口の確認をしなかったと反省のしきりであった。

6時頃やっとふもとに到着。どっと疲れがでる32000歩の妙見登山であった。同道された女性、20年間に金剛山2100回登山したとの事、とんだ一期一会につきあってもらってほんとうにお疲れさま。

さて本年入学した私の文学歴史学科の一期一会、今後どのようなものが生まれてくるのか楽しみである。

“豊かな交わりを築くかなめ”を
さぐりながら

文学歴史学科 1年 遠 藤 明

このところ(6月)、同窓会というような集いが、いくつか重なり、何だか懐かしくなってきたので参加しました。

それは、同じような世代の集いであつたり、異なった世代の方々との集いであつたり、その都度、参加者の姿はさまざまでした。

いずれの集いも、もう十数年とか、数十年とか、長い時間が隔たったうえでの集いでした。ですから、そこでは、「ずっと、あの頃に戻るね」とか、「タイムスリップしたような気がする」とか、「余計な気遣いもいらないし・・・」とか、そのようなつぶやきが、どの集いにおいても聞かれました。そのようなことから、どっぷりと懐かしさに浸ることができましたし、ここでは、新たなことに気付いたり、学ぶ機会になったりもしました。

そのような自然な思いは、一体どのようにして得られるのでしょうか。同窓の集いで心の安さが、何だか不思議でなりません。

それは、単に、長い時間の隔たりがあつたからなののでしょうか。そこに、何か格別の楽しさがあつたからなののでしょうか。あるいは、逆に、余り幸せを感じるようなことはなかったけれども、それだからこそ、何だか余計に懐かしく思えてきて・・・といったことからなののでしょうか。

いえいえ、そうとは言いきれないでしょう。それは、むしろ、そのようなことが、積み重なり混ざり合つてふくらんできた大きい感情のうねりというようなものなのではないでしょうか。

そのようなことに思いをはせていますと、ありふれた一つの事柄でも、大変大事な要素を秘めていることもあるのだなあと思えてきました。

バドミントン練習のある場でのことです。

「もっと、右足を、一歩踏み込んで!」「右、

みぎ、みぎーとステップして、打て!」「両手を上げて、90度、身体をひねって!」などと、周りの多くの人から、いろいろな指示やアドバイスをもらいます。指示されるたびに、そのように動こうとするのですが、ついつい動きがぎこちなくなり、普通以上に空振りをしてしまいます。

コーチは、時には厳しく、時には穏やかに言葉をかけてくれます。ただ、救いは、その時のしぐさや動きとともに、「笑顔」がついてくることです。この笑顔が、気持ちを和ませてくれるのです。右往左往する初心者には、その笑顔が、何よりの励ましとなり救いとなります。

少し上手になって、先を進んでいる人は、私の練習を見て、「私がたどってきたのと同じようなことをしている」との声かけをしてくれました。それは、「あわてなくてもいいよ・・・私もそうだったから、がんばって!」と励ましてくれているように思えます。それは、ちょうど、あの「笑顔」に励まされている様子と同じように思われました。

そのようなとき、ふと、以前、聞いたことがある「人と人との交わりを豊かにするための条件」というような内容の話を思い出しました。

それは、6つの要素から成り立っているというのです。

一つ目は、あの「笑顔」ということです。スマイル(smile)なのです。

それは、「ニコニコと笑った顔」「えみを含んだ顔」(広辞苑)「微笑、ほほえみ」なのです。ちょっとした笑みから、その人の穏やかさや心のぬくもりを感じることも少なくないでしょう。「笑顔はエネルギー」とのコマーシャルもあります。学生さんのTシャツの背に、「keep your smile」とあるのを見ました。やはり、「笑顔」は、ぬくもりの源となるようです。

二つ目は、「開くこと」「開けっぴろげであること」ということです。それは、オープン(open)であるといえます。

それは、「どんなことでも受け止めますよ」とか「開放的であること」とかそのような振舞いや

態度のことを指します。逆な言い方をしますと腕組みをしてふんぞり返っている人のところには、物事を尋ねよう、相談しようなどという気持ちには、おそくならないでしょう。腕組みをしている姿そのものはやや閉鎖性を表していることになるようです。

三つ目は、「前に向かって」「前進的」ということです。それは、フォワード (forward) ということです。それは、積極的にやる気を発揮していくということなのです。何事にも進んで取り組む人の表情は、色艶もよく生き生きとしています。その人は、活気に満ちつらつとしているように見えます。

四つ目は、「接触、触れること」ということです。それは、タッチ (touch) なのです。それは、「触れ合うこと」「かわること」なのです。「ある物事に関与すること」「味方の選手の手に触れて交代すること」などです。

「仕事、順調！」とか、「すごい！素晴らしい作品ができたね」とか、そう言って、相手から肩をボンと叩かれるようなとき、ハッと驚きますが、そのことによって、お互いに何だかいい気分になってきて、そのうえ、「よかったね」「うまく工夫したね」などと褒めてもらったりしますと、もうすっかり自分の行動を理解してくれているような気持ちになります。その「タッチ」のことをいうのです。

五つ目は、「目と目をあわすこと」「目と目によるコミュニケーション」ということです。

それは、アイコンタクト (eye contact) ということです。

サッカーワールドカップ南アフリカ大会の対デンマーク戦は、3対1で勝利したことは、まだ記憶に新しいでしょう。あの時の日本チームの戦い方は、素晴らしい典型でした。感動的でした。新聞やテレビは、大きく絶賛していました。

「組織で守りながら、攻撃でもボールを早く動かす理想的な展開で、日本らしさが出ていた」(6月26日朝刊付神戸新聞) この「組織で守る」や「ボールを早く動かす」等においては、

何よりも相手の表情をつかむことが大切になります。

あの「一人一人のカバリングの動き」には、お互いの目と目によるコミュニケーションが根本を支えているといえましょう。そこに、選手お互いの信頼関係も生まれてくると思います。

さらに、「本田が、自分で打たず確率の高い岡崎にパスをしたのは、この勝利に懸ける思いが表れたプレーだった。」とあります点、そこには、相手との互いのアイコンタクト (eye contact) の交わし合いがあり、その効果が生かされているといえましょう。

六つ目は、「うなずく」ということです。それは、ノドゥル (noddle) ということです。

それは、「肯定・同意・承諾などの気持ちを表して、首を縦に振る」ことです。相手が、うなずいてくれると、「ああ分かってくれている」と思い、いっそう話も弾みますし、信頼の絆も増していくことでしょう。特に、電車の中では、騒音の中でも、相手とのうなずき合いによって、互いにいっそう会話を楽しむことができます。

このように、6つの要件は、それぞれの内容を表す言葉の頭文字、「S」「O」「F」「T」「E」「N」を並べて、ソ・フ・テ・ン (SOFTEN) という造語でもって表すことが出来ます。

ですから、「豊かな交わりを築くかなめ」は、この「SOFTEN」という要素が、自然に、からまり合って熟していくのだろーと思ひ、改めて、その大切さを省みています。この「SOFTEN」は、どの要素を欠いても、温かい交わりを築くことは、容易ではないでしょう。これは、「人と人との交わりを築く要件を表している」といえます。

かの同窓の集いのような場においては、このようにいろいろな要素が、積もり混ざり合って広がり、モザイク的にからまり満ちていくと思います。その底には、純粋さがあつたからでしょう。

そんなことを思い浮かべながら、懐かしさを味わっていました。(終わり)

石 立 僧

国際文化学科 2年 神内 重明

豊臣秀吉の時代、活躍した植木職木接太夫の記念碑が阪急宝塚線、山本駅にあり、碑を見て電車通勤した。リタイヤ後、庭園史にテーマを絞って勉強してみたいと、各地の名庭めぐりを始めだした。

庭園史の上で代表される毛越寺庭園遺跡（岩手県、平安期）、頼久寺（岡山県、江戸期）を訪ねることから名庭の造園にかかわる石立僧の存在を識った。

西芳寺（苔寺）、天竜寺の作庭家として知られる夢窓国師たちとは「どんな立場で作庭に関与していたのだろうか」と興味を持った。戦国時代の築城家、絵図については資料が残されているが、庭園に関しては築庭家、絵図については、明らかにされるものは少なく、ただ、茶人大名として有名な小堀遠州（江戸期）の作庭と口伝される庭園は、全国各地に所在する。

現在の様な重機の無い時代、巨石の運搬、建立を、誰れが、どう、指示し築庭作業をしたかが明らかでない。趣味人の施主が、石の扱いに慣れている、当時の河原人を動員して、運搬、建立したことには間違いはないだろう。

禅宗の寺院には、僧侶の身でありながら、河原人たちを動員、指示して築庭に携わっていた僧侶、石立僧がいた。建仁寺（東山）などには、読経、作務とは別に、築庭作業に専念する石立僧のいたと記録されている。

建仁寺派の築庭技術は、京の寺院庭園「枯山水庭園」として伝えられている。

醍醐寺三宝院の築庭には、晩年の秀吉が改修を命じ、秀吉没後も完成に貢献した石立僧は「賢庭」と呼称されている。京には、名庭は残されているが江戸期までの作庭家の名は、明らかにされているものは少ない。

明治、大正、昭和になってからは、南禅寺界限に政治家、事業家の庭園を作庭した小川治兵衛、重森三玲などが、先人の名庭を研究し、時代に即した庭苑づくりに励み、その名を残した人がいる。石立僧については、まだまだ研究の余地がある。健康と財政の許す限り名庭を訪ね、彼らの労務をねぎらい、静かに対話したい。

文
芸
欄

上野 栄三

腹時計 狂ったことがありません

人生の 河は静かに 流れゆく

恋やぶれ 青葉のしづく 目をうがつ

あじさいの ように輝く 恋の色

夕暮れは そぞろ恋しい 町あかり

「あじさい川柳会」入選作より

シニア専修コースで

学ぶことになって 知新

還暦を 過ぎた人たち 活きいきと

けやき並木で 友と語らむ

幾星霜 再び通う 学び舎で

けやきの若葉も 我も輝く

ク ラ ブ 紹 介

コーラス「けやき」

コーラス「けやき」の発足は神戸市立シルバーカレッジからシニア専科に入学して来た二期生を中心に音楽好きが合唱の楽しみをモットーに八年間前に現指導者の田井先生・ピアノの永末先生の指導の下、部員27名（男性9名・女性18名）でコーラス「けやき」はスタート致しました。

基本的には混声三部・四部合唱で週1回（1時間半）現在も合唱指導は田井先生、ピアノは山岸先生で和気藹々の中にも厳しい指導で合唱を楽しんでいます。主な活動・発表の「場」は秋の学園祭の出演・シニア専科の入学式・卒業式での「学園歌」の斉唱に始まって入学・卒業其々のシーンに相応しい歌曲を3曲程度歌って送迎の「意」を現わしています。

今は、メンバー女性7名・男性9名で秋の学園祭参加を目標に新曲に取り組んでいます。

発足当時に比べ女性がチョット少ないのが気になるところです。この記事を読まれて入部

（特に女性）希望の方はぜひ気軽に練習風景をのぞきに来て下さい。

毎週金曜日14時30分から学生食堂ホールで練習をしています。

（文 吉本 正明）



謡曲部「櫛謡会活動報告」

園田名物けやき通りから、櫛謡会と名付けた謡曲クラブは平成15年秋に活動開始しました。第2期生の入学生懇親会で、一節謡ってくださった岩坪さんを部長とし、謡曲歴50年以上という野上先生のご指導のもと、観世流謡曲を月1～2回ペースで練習を続けてきました。とにかく大きな声で！お腹に力を入れて！という声かけで始まったお稽古を続けることで、室町時代初期に大成されたと言われる600年の歴史を持った能楽に楽しみが持てるようになり、古典文学から名文、美文が随所に採り入れられていることが解り、余分な肉を削ぎ落とし、洗練された言葉、形となった能楽の魅力に、私達の得たものは大きいものがありました。



けやき祭

・入学式・卒業式場で発表出来たことも大きな成果となり、生涯学習センターのご支援のお蔭です。今後は、12月のセンター創立30周年記念行事の場で謡いたいと練習している今日此の頃です。

（文 木村 洋子）



情報学科2年 上野栄三 画

「けやき便り」編集クラブ

私たちシニア専修コースで学ぶ者が、少しでも意義ある学園生活を送れることを念願して、情報誌の編集には、全くの素人が集まって、「けやき便り」の発行を思い立ち、編集クラブを立ち上げ、発刊させて頂くことになりました。

私たちは、「けやき便り」の取材、編集、パソコン操作を通して、「第2の青春」を楽しみたいと考えています。

皆さんも、「けやき便り」を作りながら、仲間づくりをしませんか！！

編集会議は第1火曜日 13:00 と第3木曜日 14:45 の月2回、5号館2階のチャティーで行っていますので、一度覗いて見てください。



(文 中村米三郎)

「けやき便り」原稿投稿のお願い

「けやき便り」は、私たちシニア専修コースで学ぶ者の情報誌です。

皆さま方から頂く投稿が、「けやき便り」を作っています。

投稿を心からお待ちしています。

「けやき便り」の投稿について

1. 「けやき便り」は、原則として「MS明朝体」「12ポイント」のフォントを使います。

2. 原稿について

① 原稿用紙で頂く場合

市販の400字づめ原稿用紙をお使いいただくか、またはメモ用紙に記入して頂いても結構です。また、当クラブも専用の400字づめ原稿用紙を用意していますので、必要な方は、お申し出下さい。

② パソコンでプリントされた場合

プリントされた用紙をそのままご提出下さい。できれば、画像が含まれている文書を投稿される時は、ファイルのまま頂くと非常に有難いです。その場合、提出方法は、編集クラブ員にご相談下さい。

3. 次の内容を含む投稿はお断りします。

① 宗教・政治に関するもの

② 公序良俗に反するもの

③ 一般常識の範囲を大きく逸脱していて、「けやき便り」編集グループが、掲載することを不可と判断したもの

4. 原稿は、止むを得ない場合に限り、変更・修正をすることがありますのでご了承ください。

① 紙面のレイアウトを整えるため

② 編集グループで気がついた明らかな誤記や不適切な表現を避けるため

5. 頂いた原稿は、編集およびページ数の関係上、最新号に掲載できない場合があります。また、原稿は返却いたしかねますので、ご了承ください。

6. 画像を掲載する時、カラー画像を頂いても、紙面には印刷に適した色に変換して掲載しますのでご了承ください。

7. 投稿は1号館1階にある総合生涯学習センターに設置してある「けやき便り」投稿箱にお願いします。



総合生涯学習センターからのお知らせ、お願い

- ★ 本年12月11日（土）に、「今日は一日生涯学習三昧」と銘打って「生涯学習の文化祭」を行います。みなさんが「主人公」です。これから一緒にプログラムを作っていきたいと考えています。ご参加をお願いいたします。
- ★ 登校時には、必ず『掲示板』をチェックしてください。
大学では、殆どのご連絡を「掲示」でおこないます。休講、教室変更、諸行事、連絡事項など、登校の際必ず1号館1階玄関ロビーの「掲示板」にてご確認ください。

編集後記

「けやき便り」創刊に際して

私たちが学ぶ園田学園女子大学シニア専修コースの初めての情報誌「けやき通信」は、平成15年7月1日に第1号を創刊され、平成17年4月11日に第11号を最終号として終了されました。

私たち有志は、過去に情報誌があったことを知り、情報誌の必要性を痛感して、情報誌の刊行を行うことを話し合いました。

素晴らしい内容の「けやき通信」を1年10カ月という短期間の間に11号まで発行された先輩たちのご努力に対して、私たちは心からの敬意を表します。

ただ、私たちは、先輩たちの偉業に心しながら、「新しい情報誌を発行しよう」という情熱から、情報誌の名前を「けやき便り」と名付け、「けやき便り」編集クラブを立ち上げました。

「けやき便り」作成の目的は、シニア専修コースで学ぶ人たちのコミュニケーション、情報の提供、学内・学外での出来事を記録することにあります。

そのためには、記事の投稿、編集クラブへの参加等、皆様方の絶大なご支援・ご鞭撻が是非とも必要です。「けやき便り」をよろしくお願い申し上げます。

また、末尾になりましたが、総合生涯学習センターの皆様方には、いろいろとご協力、ご支援を頂いたこと、心からお礼を申し上げます。

「けやき便り」編集クラブ

平成21年にシニア専修コースに情報学科が新設されて人数も増え、コミュニケーションや情報交換の必要性を痛感していたおり、情報誌の刊行を知り、編集クラブの一員に加えさせていただくことになりました。魅力ある情報誌を作りたいと思っておりおます。 E. U

私に関わるとは夢にも思わなかった“けやき便り創刊号”の編集が終わりました。“けやき便り”“発行のメンバーの一人となって、新しい自分を発見したように思います。“けやき便り”が皆さんに少しでも喜んでいただけたら嬉しい限りです。今回、「何事も出会いが大切だ」とつくづく思いました。 F. Y

この「けやき便り」がシニア専修コースで学ぶ人たちとコミュニケーションをはかり、情報を共有して楽しい学園生活が送れば喜ばしいことです。次回も皆様方の投稿をよろしくお願いいたします。 T. S

仲間から誘いを受け、「使い走り」ならという事で引き受けました。クラブの仲間からいろいろ教えてもらいながら、なんとか完成間近までこぎつけました。原稿取り、取材等が適役だと思っているので、これからは、その分野で頑張っていくつもりです。 T. Y

やっと、創刊号が発行できました。やはり初めてのことなので大変でしたが、でも楽しみもありました。例えば、編集会議の帰路、ビールを飲みながら、会議の続きを行っています。皆さまも一緒に編集会議に参加されませんか。 Y. N